

【授業科目】在宅看護援助論Ⅱ（展開論）

Home care Nursing Ⅱ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
春名 誠美、多次 淳一郎、北井 真紀子	3年次前期	必修	2	46	演習	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要 / 本科目では、在宅での看護過程を展開するために必要な思考過程を演習を通して学ぶ。具体的には、国際生活機能分類を枠組みとした在宅療養者と家族の情報収集・アセスメント・看護計画立案の一連の過程を紙上事例での演習を通じて学ぶ。また、介入時期や疾患・障害の特徴に応じた在宅看護の実践について既習の知識を活用して考えるとともに、地域包括ケアシステムを構築する意義とその方法について学ぶ。講義はレジュメを中心に教科書、視聴覚教材(DVD等)を用いて行う。また一部の単元でゲストスピーカーによる講義を行う。演習は個人ワークとグループワークを併用して行う。</p> <p>課題に対するフィードバック方法 / 各回の授業カードで感想・質問を収集し、次回以降の講義時にコメント・回答し、全体で共有する。提出課題については、総評コメントを資料として受講者に配布する。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係においてとらえ、地域社会の生活者の視点から看護を実践することができる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①国際生活機能分類(ICF)を用いた看護過程の展開方法がわかる。 ②紙上事例を通じて、利用者と家族の健康問題を抽出し、必要な援助を考えることができる。 ③在宅における介入時期別の課題と看護の役割がわかる。 ④在宅療養者に多い疾患や障害に応じた看護の特徴がわかる。 ⑤地域包括ケアシステムを構築するための方法と其中での看護の役割を考えることができる。</p>							
時間外学習に必要な内容・時間	<p>課題 ①在宅看護過程の演習で作成した記録物一式をまとめる(第1回指示、第10回提出) ②地域での支援困難事例に関する文献を読み、当事者の地域生活を支える看護の役割について考えをまとめる。(第11回指示、第19回提出) ③提示事例から1例を選び、地域包括ケアシステム構築における看護の役割を論じる(第20回指示、第23回提出) 事前・事後学習 事前学習:教科書の該当・関連箇所をおよび随時提示する参考図書等を読み、まとめておく(各30分) 事後学習:同日の学習内容をふりかえり、整理しておく(各30分)</p>							
授業計画	<p>1. オリエンテーション、在宅看護過程とケアマネジメントの意義と目的 【課題①指示】 第2-10回 在宅看護過程の展開 2. 看護過程講義① 情報収集の方法とポイント 演習オリエンテーション 3. 看護過程講義② 関連図・アセスメント・目標の立て方 4. 看護過程講義③ 目標・計画・評価 5. 看護過程演習① アセスメント(GW) 6. 看護過程演習② アセスメント(GW) 7. 看護過程演習③ 看護計画立案(GW) 8. 看護過程演習④ 看護計画立案(GW) 9. 看護過程演習⑤ 看護計画発表会 10. 看護過程演習⑥ 看護計画発表会 【課題①提出】</p> <p>第11-20回 対象の特性に応じた在宅看護の実践 11. 体調を整える看護 在宅で暮らす視点を考える 【課題②指示】 12. 介入時期に応じた看護 各期に特徴的な支援ニーズと看護の役割 13. 対象別在宅看護① 生活習慣病とともに暮らす人を支える(1) 14. 対象別在宅看護① 生活習慣病とともに暮らす人を支える(2) 15. 対象別在宅看護② 難病とともに暮らす人を支える(1) 16. 対象別在宅看護② 難病とともに暮らす人を支える(2) ゲスト(訪問看護師) 17. 対象別在宅看護③ End-of-life期を生きる人を支える(1) 18. 対象別在宅看護③ End-of-life期を生きる人を支える(2) 19. 対象別在宅看護④ 病気や障害をもつ子どもと親を支える 【課題②提出】 20. 対象別在宅看護④ 病気や障害をもつ子どもと親を支える ゲスト(訪問看護師) 【課題③指示】</p> <p>第21-23回 在宅療養者と家族を支える地域包括ケアシステムの構築と看護の役割 21. 在宅療養者の災害への備えと地域包括ケアシステム(GW) 22. 介護を担う人の孤立予防と地域包括ケアシステム(GW) 23. 看護の創造 異業種と連携したケア提供の場づくり(GW) まとめ 【課題③提出】</p>						<p>春名・多次 2.-4.北井 5.-10. 北井・春名・多次  11.-20. 春名  21.-23 多次。</p>	
評価方法 評価基準	<p>課題90%(①②③各30%) 演習への参加度・態度10%で総合的に評価する。</p>							
教科書	<p>・河原加代子,他著『系統看護学講座 地域・在宅看護論の実践 地域・在宅看護論2』(第6版1刷)医学書院</p>			<p>参考書等</p>		<p>講義の中で適宜紹介</p>		
学生への助言等	<p>本科目を通じて、病気や障害を持ちながら地域・在宅で暮らす人々を多角的に捉えることの難しさと奥深さを学んでください。講義・演習での学習は在宅看護実習に直結しますので、常に実習(実践)とのつながりを意識し、積極的に学ばれることを期待します。</p>							